

美馬市木屋平の神社祭礼

民俗班 (徳島民俗学会)

高橋 晋一*

要旨：美馬市木屋平の神社祭礼の特色は、以下の5点に集約される。1) 多くの地区で春・夏・秋の年3回祭りが行われる。2) 春祭りに「お的」行事を伴うところが少ない。3) ほとんどの地区で例祭に山車が出るが、担ぐタイプの山車（屋台、あばれ）が主流となっている。4) 新八幡神社（八幡）の「ごくたき」、八幡神社（榎原）の当屋の受け取り渡しの儀式のような古風を伝える神事が残っている。5) 宵宮の当屋祓い、当屋入りのように当屋祭祀の重要性を示す行事が見られる。近年過疎化が進む中で祭りの簡略化が進んでいるが、古風を残した祭礼要素は学術的に貴重である。

キーワード：祭礼、山車、お的、神事、当屋祭祀

1. はじめに

本稿の目的は、美馬市木屋平の神社祭礼の概要を報告するとともに、同地域の祭礼の特色を指摘することにある。本稿では、平成19年6～10月にかけて行った現地調査（聞き取り調査・祭礼の観察調査）に基づき、各神社祭礼の概略を示した上で、美馬市木屋平の祭礼の特色を整理・検討したい。

木屋平地区は昭和40年代以降全域にわたり過疎・高齢化・少子化傾向が進み、伝統的な祭りの姿は大きく変貌した。祭りの簡略化傾向は今後も続くものと思われ、聞き取り、観察による伝統的な祭礼の姿の記録は緊急の課題と言える。

2. 美馬市木屋平の神社祭礼の概要

美馬市木屋平の神社および祭礼の概況は表1の通りである。ここでは各神社祭礼の概要を紹介する。

1) 八幡神社、明神社祭礼（榎原）

氏子は現在約20戸（かつては約70戸）。祭りの世

話役である当屋は、上、下、向榎原・榎原谷の3組の輪番。榎原では八幡神社（1月11日）、明神社（6月19日）の2ヵ所で、弓矢で的を射る「お的」行事が行われている。戦前は宵宮から当屋宅にお的の射手と矢拾いの子供が泊まり込んで精進潔斎した。的はまず「送り」（前年の当屋）が射て、続いて「受け取り」（当年の当屋）が射る。お的に参加できるのは男性のみで、50年ほど前までは羽織袴姿であった。お的の行事の前に、おごく（白飯）を少しおひつに入れ、矢を2本まとめて入れて新旧の当屋が甘酒を造るようにかきまぜる。これを「受け取り渡し」と言い、当屋の受け渡しの意味があるという。なお、榎原には神輿や山車はない。

2) 八幡神社祭礼（三ツ木）

氏子は約20戸。以前は60戸以上あった。当屋組は現在5組を4組に再編、各組宛1戸が当屋として祭り当日の世話をする。

秋祭り（10月25日）は、現在は午前中に神事を行い、神輿が馬場を往復するのみであるが、かつては

* 徳島大学総合科学部

表 1 美馬市木屋平の神社祭礼一覧

No.	名称	所在地	旧社格	祭礼 1	祭礼 2	祭礼 3	山車	神輿	芸能	備考
1	八幡神社 (檜原八幡神社)	木屋平字檜原132	無格社	1/11 (お的)	6/11	◎10/19	なし	なし		当屋渡し (甘酒)
2	明神社	木屋平字檜原 (向檜原明神岳)	無格社		◎6/19 (お的)		なし	なし		
3	八幡神社 (三ツ木八幡神社)	木屋平字貢136	村社	1/15 (お的)	7/15 (お的)	◎10/25	屋台(5人打ち)(休止), あばれ(4人打ち)(休止)	神輿渡御		
4	八幡神社 (二戸八幡神社)	木屋平字二戸10	村社	1/12	6/12 (休止)	◎10/25	あばれ(4人打ち) (休止)	神輿渡御 (休止)		
5	八幡神社 (南張八幡神社)	木屋平字南張159	無格社	1/13 (お的)	7/13 (お的)	◎10/13	屋台(5人打ち) (休止)	神輿渡御	獅子舞(休止), 傘踊り(休止)	帳元(宮座), 福水桶(麴)
6	八幡神社 (大北八幡神社)	木屋平字大北232-1	村社	1/12 (お的-休止)	7/15	◎10/21	あばれ(3人打ち)(休止) (太鼓のみ奉納)	神輿渡御		
7	日吉神社	木屋平字川井139-4	無格社	1/9 (お的-休止)	7/20	◎10/20	屋台(5人打ち) (据え打ち)	神輿渡御	子供相撲 (休止)	神相撲
8	麻衣神社 (西ノ宮)	木屋平字麻衣97	無格社	1/10	7/7	◎10/19	なし	なし		
9	須佐神社 (東ノ宮)	木屋平字麻衣346	無格社	1/10 (お的-休止)	7/7	◎10/19	あばれ(3人打ち) (休止)	神輿渡御 (休止)	子供相撲 (休止)	
10	新八幡神社	木屋平字八幡76	無格社	1/5	7/16	◎10/ 14・15	だんじり (5人打ち)	神輿渡御	子供相撲	ごくたき (宮座)
11	八幡神社 (森遠八幡神社)	木屋平字森遠363	村社	1/7 (輪抜け)	◎ 10/22	11/23	屋台(5人打ち) (据え打ち)	神輿渡御	子供相撲 (休止)	
12	谷口神社	木屋平字谷口278	村社	1/3 (お的)	7/12	◎10/27	だんじり(5人打ち) (据え打ち)	神輿渡御	子供相撲 (休止)	
13	滝ノ宮神社	木屋平字太合173	無格社		◎7/9	旧11/7	あばれ(3人打ち) (据え打ち)	神輿渡御		神輿の川 渡御
14	川上神社	木屋平字川上198	無格社	1/1		◎10/28	屋台(5人打ち) (休止)	神輿渡御	子供相撲 (休止)	
15	劔山本宮劔神社	木屋平字川上カケ1	郷社		◎7/17		なし	神輿渡御		
16	春宮神社	木屋平字春宮山1	無格社		◎5/5		なし	神輿渡御 (休止)		

注) ◎は例祭。

神輿に加え担ぐ山車である屋台1台、あばれ1台が出ていた。屋台は5人乗りで大太鼓1, 小太鼓2, 鉦2。あばれは中央に据えた太鼓を4人で叩いた。屋台は男子、あばれは女子が乗った。あばれは終戦近くに新造したものである。戦前には宵宮にも屋台が出た(宵練り)。屋台、あばれは昭和39年の火事で焼失し、現存しない。春祭り、夏祭りにはお的の行事がある。

3) 八幡神社祭礼(二戸)

氏子は現在今丸, 二戸の14戸(かつては50戸以上あった)。当屋は2つの当屋組(今丸, 二戸)から1年交代で出す。秋祭りは10月25日。現在は神事のみであるが, 10年ほど前まで神輿が出ていた。30年ほど前まで「あばれ」と呼ばれる山車も出ていたが, かき手, 打ち子の減少により休止した。あばれには小学生男子4人が乗った。祭り当日は昼過ぎより神事を行い, 神輿とあばれが境内を練り歩いた。昔は宵宮にも「宵練り」と言ってあばれが境内を練った。

春祭り, 夏祭りは神事のみ。

4) 八幡神社祭礼(南張)

氏子は現在17, 8戸。以前は60戸くらいあった。かつては神社の創建に関わったとされる梅津家・西浦家が世襲の「帳元」として, 神職と共に本殿に入り神饌を供えるなど祭祀に特権的な位置を占めていた。当屋は現在上, 中の2組の輪番。各当屋組に「福水桶」と呼ばれる木製の桶があり, 当屋は宵に炊いた麴こうじを入れて祭典当日持参, 本殿前に供える。

秋祭りには昭和53年まで5人乗りの屋台が出ていたが, 打ち子・かき手の不足のため休止した。昭和45年頃まで屋台の宵練りもあった。祭り当日は夕方から神事を行い, 神輿・屋台が境内を練った。小学生女子の傘踊り, 2頭だての獅子舞(写真1)も奉納されていたが, 屋台と同じ頃休止。獅子舞は吉野川市美郷字平の八幡神社から伝習した。現在, 秋祭りは神事のみ。春祭り, 夏祭りにはお的の行事がある。昔は射手が当屋宅に泊まり精進潔斎した。



写真1 獅子舞（南張・八幡神社）写真提供=新田仁志氏

5) 八幡神社祭礼（大北）

氏子は現在19戸（昭和30年には37戸）。当屋制は負担がかかるので平成18年よりなくなった。秋祭りは10月21日。現在は神輿渡御のみであるが、昭和50年代まで「あばれ」が出ていた。小学2～4年生の打ち子（男子。のち女子も参加）3人が乗り、中央に据えた太鼓を叩いた。祭り当日は午前中に神事を行い、午後から神輿とあばれが出た。昭和40年代まで宵宮にもあばれが境内で練った。かつては宵宮の日に神職、打ち子が当屋宅に泊まり込んだ。春祭り、夏祭りは神事のみ。春祭りのお酌は昭和16年、戦争が始まって休止した。

6) 日吉神社祭礼（川井）

氏子は現在55戸（かつては約90戸）。当屋は、現在は川井奥、下、櫟ちちの木の3組で回している。

秋祭りには神輿のほか屋台が出る。以前は下に車輪が付いた曳きだんじりであったが、昭和13年頃壊れ、かき屋台に変えた。打ち子は男子小学生（現在は女子も参加）5人で、大太鼓1、小太鼓2、鉦2。当日は13時過ぎより神事を行い、神輿が出る。神輿が出る前に、神前で男子2人が「神相撲」と呼ばれる儀礼的な相撲を取る。勝負は1勝1敗の引き分けになるようにする。神輿は境内の付近を回り、夕方にはお入りする。屋台は境内で据え打ち（昭和50年より前はいっていた）（写真2）。昭和35年頃までは神社が下（国道沿いの学校の所）にあり、屋台は神輿とともに役場の前の道路を往復した。昭和50年代まで宵宮にも神輿、屋台が出た。春祭りには昭和27、8年頃までお酌を行っていた。夏祭りは神事のみ。



写真2 屋台の据え打ち
（川井・日吉神社）

7) 麻衣神社（西の宮）、須佐神社（東の宮）祭礼（麻衣）

氏子は現在3戸（昭和30年代は28戸）。輪番の帳元1戸が1年間の祭りの世話をする。秋祭りは10月19日。過疎の進んだ現在は神事のみであるが、かつては早朝に集落背後の城ノ丸神社に上り、御霊みたまを降ろして東の宮に行き神事を行い、あばれの打ち子（小学生男子3人）が太鼓を叩いた。その後、空の神輿を担いで西の宮に行き神事を行い、神輿、あばれが境内を練った。あばれは昭和45、6年頃まで出ていた。1月10日の春祭りにはお酌の行事があり、10人ほどの大人が酌を射ていた。

8) 新八幡神社祭礼（八幡）

氏子は現在52戸。当屋組は現在弓道、八幡、下分の3組。秋祭りには、天神さんの祭り（14日）、八幡さんの祭り（15日）の2日間とも神輿、だんじり（曳くタイプの山車）が出る。だんじりには小学生男子（現在は女子も入る）のだんじり子（打ち子）5人が乗る。構成は大太鼓1、小太鼓2、鉦2。祭り当日神前におごく（白飯）を供える「ごくたき（御炊炊き）」の役は、神社の創建に関わったとされる大東、川窪の2軒が代々務めてきたが¹⁾、現在は天毎木美八氏が継承している（写真3）。かつてはケヤキの高坏たかつき108個におごくを載せ本殿の前に並べた。祭り当日は14時頃より神事、その後神輿、だんじりが出る。境内ではくじ引きや子供相撲なども行

われる。春祭り、夏祭りは神事のみ。春祭りには戦時中までお的の行事があった。



写真3 おごく（八幡・新八幡神社）

9) 八幡神社祭礼（森遠）

氏子は現在約40戸（かつては約60戸）。当屋は東、西、上の3組の輪番。秋祭りは10月22日。屋台は昭和60年頃よりかき手不足で境内での据え打ちになる。打ち子は男子（現在は女子も参加）小学生5人。大太鼓1，小太鼓2，鉦2。昔は宵宮にも屋台が出て（宵練り），打ち子は当屋宅に泊まった。祭り当日は14時頃より神事を行い，神輿は境内を出て東と西の御旅所^{おたびしよ}を回り，夕方には神社に戻る。裏祭り（11月23日）は神事のみ。1月の春祭りには輪抜きの行事がある。

10) 谷口神社祭礼（谷口）

氏子は約45戸。当屋組は東，西の2組で，交代で年間の神社行事のお世話をする。秋祭りは10月27日。当日は14時から神事を行い，神輿，だんじりが出る。だんじりは曳くタイプの山車で，屋台子5人（大太鼓1，小太鼓2，鉦2）が乗り込む。神輿とだんじりは国道沿いの東，西の御旅所まで行き，神社に戻る（写真4）。かつては宵宮にもだんじりが出た。打ち子は当屋入りと言い，宵宮の晩から当屋宅に泊まった。だんじりは昭和28年に新調したもので，お囃子は八幡の新八幡神社から伝習した。春祭りにはお的の行事が行われている。

11) 滝の宮神社祭礼（太合）

氏子は太合^{たいごう}の54戸。当屋は滝の宮，寺内，奥の3組の輪番。滝の宮神社は夏祭り（7月9日）が例祭



写真4 だんじり巡行（谷口・谷口神社）

で，秋祭りは神事のみ。夏祭りには神輿に加え「あばれ」が出る。あばれは小学生男子（今は女子も参加）3人が乗り，中央に据えた太鼓を叩く。当日は神事後，15時頃神輿が出る。神輿は川沿いの馬場を進み，川に入る²⁾。あばれは現在は据え打ちであるが，かつては馬場の間を往復した。神輿は太合住宅のところから国道に上がり，夕方神社に戻る。10年ほど前まであばれの宵練りがあった。

12) 川上神社祭礼（川上）

氏子数は約40戸（昭和30年代までは約80戸）。当屋は1～4組の輪番。秋祭りは10月28日。かつては神輿に加え，屋台が出ていた。打ち子は小学生男子5人（大太鼓1，小太鼓2，鉦2）。現在は13時より神事を行い，神輿が出る。地区の家を順番に回り，夕方に神社に戻ってお入りとなる。

13) 剣山本宮剣神社祭礼（川上カケ）

剣山本宮剣神社は，剣山信仰の木屋平側の本拠地の一つとなっている。徳島県内に8組の崇敬者の講社（瑞穂組，万字組，^{いしん}惟神組，春日組，日の出組，神島組，元沖組，^{こうら}高藍組）があるほか，高知などにも講社がある。崇敬者は約3,000人。

祭礼日は7月16・17日。以前は富士池谷の本社で祭りを行っていたが，昭和51年の台風災害以降は剣山山頂の宝蔵石神社で祭りをすることになった。祭りの世話役は8講社の持ち回り。現在，山頂近くの平家の馬場で神輿渡御を行っている（写真5）。当日は10時から宝蔵石神社の前で神事を行い，^{すきのおのみこと}安徳天皇と素戔嗚尊の御霊を神輿に遷す。神輿は11時に出発，御旅所で神事を行い，13時頃神社に戻る。神輿



写真5 剣山山頂大祭 写真提供=木村浩明氏

には平家の赤旗を持った一般参詣者等が付き従う。

平成12年から5月3・4日, 11月2・3日に奥がけ・奥まいるの行事を行うようになった(以前は組ごとにしていた)。槇淵神社を出て龍光寺に立ち寄り剣山本宮へ。一の森神社, 二の森神社を経て宝蔵石神社へ。宝蔵石神社で分霊を遷し1泊, 翌日, 行場を回り槇淵神社へと戻る。

14) 春宮神社祭礼(春宮山)

氏は今丸・二戸の13戸。今丸, 二戸で交互に当屋を出している。祭日は5月5日。現在は神事のみであるが, 10年ほど前まで神輿が出ていた。春宮山頂には春宮神社(木屋平側)と東宮神社(神山側)の2社があり, 氏は異なるが同じ日に祭りを行い, かつては露店なども出て賑わった。神山側には神輿に加え5人乗りの屋台があった。

3. 美馬市木屋平の神社祭礼の特色

ここでは前章で紹介した事例をふまえ, 美馬市木屋平の神社祭礼の特色を整理したい。

1) 多くの地区で春・夏・秋の年3回祭りが行われる。

多くの神社では年3回祭りが行われ, 収穫感謝の秋祭りが例祭として位置づけられている。春祭りは神事+お的, 夏祭りは神事(+お的), 秋祭りは神事+神輿巡幸+山車運行という構成をとる地区が多い。

2) 春祭りに「お的」行事を伴うところがない。

多くの地区で, 主に1月の春祭りに「お的」と呼ばれる弓矢の神事が行われてきた。お的(県西部で

は「百手」と呼ぶところが多い)とは年頭に当たり弓矢で的を射て一年の豊作・平穏な生活を祈念する行事である。香川県から徳島県西部にかけて分布が密であり, 木屋平もこうした「お的(百手)文化圏」の一部をなす。

3) ほとんどの地区で例祭に山車が出るが, 担ぐタイプの山車(屋台, あばれ)が主流となっている。

木屋平は, 山車の中でも屋台, あばれ(いずれも担ぐタイプの山車)が優勢である。県内でも県南・県西部は曳くタイプの山車(だんじり)が, 県北の吉野川流域は担ぐタイプの山車(屋台)が優勢であるが³⁾, 木屋平地区は隣接する美馬市穴吹町, 美馬郡つるぎ町一宇, 吉野川市美郷などと同様, 「屋台文化圏」に属していることがわかる。しかし, その中でも3カ所(日吉神社を含め), だんじりを有する地区が存在することは注目に値する。いずれも平野部に立地する集落であり, 山車を「曳く」のに適した地形である。環境に即して山車のかたちが選択された例と言えよう。

4) 新八幡神社(八幡)の「ごくたき」, 八幡神社(榎原)の当屋の受け取り渡しの儀式のような古風を伝える神事が残っている。

新八幡神社(八幡)で「おごく」を108の高杯に盛り神前に供える行事は, その形態からいわゆる「七十五膳神事」⁴⁾の一種と考えられる。また新八幡神社, 八幡神社(南張)では, 神社の創始に関わったとされる家が祭祀に特権的に関与するという, 一種の宮座的な祭祀システムが存在したことがわかる。八幡神社(榎原)の当屋の受け取り渡しの儀式や, 八幡神社(南張)の福水桶の習俗は, 甘酒の灵力⁵⁾を象徴した特色ある儀礼と言える。日吉神社(川井)の「神相撲」は神への祈願を示す呪術宗教的な儀礼であり, 単なる奉納相撲ではない⁶⁾。これらの行事は目立たないが, 祭祀儀礼の古風を伝えるものとして貴重な事例である。

5) 宵宮の当屋祓い, 当屋入りのように当屋祭祀の重要性を示す行事が見られる。

現在は簡略化されているものの, 多くの地区では宵宮に神職が当屋宅を祓い(当屋祓い), 打ち子などの関係者が泊まり込む(当屋入り)習慣が見られ

た。これは、祭りに当たり氏子の代表として神に仕える当屋宅を浄め、祭礼に関わる人々がお籠もりをして精進潔斎をするという、当屋祭祀の重要性を示した習俗と考えられる。

4. おわりに

以上、美馬市木屋平の神社祭礼の全体像を紹介し、その特色を指摘した。過疎・高齢化・少子化に伴い簡略化が進んでいるが、木屋平の祭礼行事には地域性を見て取ることもできる。お的行事は県西部の文化圏域の影響、担ぐタイプの山車には吉野川流域の文化圏域の影響が現れている。剣山信仰の本拠地の一つという性格も看過できない。また、簡素であるが古風を残した習俗の伝承は注目される。民俗の本質を示す貴重な事例として記録にとどめておく次第である。

謝 辞

今回の調査では多くの方にお世話になりました。とくにお世話になった方々のお名前を記して謝意を表します（五十音順、敬称略）。
赤羽善一、天毎木美八、天田久雄、岩雲義弘、梅津

俊久、浦 陽一、奥坂能久、木村浩明、佐古武重、高雲勝幸、中井 勤、新田仁志、東埜正一、平尾文男、南本徳武、森 熊男、山本秀昭。

注

- 1) 三木 (1971) : 953頁。
- 2) 県内における川渡御の事例は、佐那河内村上の朝宮神社、松茂町中喜来の春日神社、海陽町日比原の井上神社など10例程度であり(筆者調査による)、特色のある習俗と言える。
- 3) 高橋 (2005) : 20頁。
- 4) 多種多数の神饌を神前に供える神事。「七十五」は数が多いことのとえ(齋藤 (1999) : 1頁)。
- 5) 甘酒は新穀の象徴である。高橋 (2006) : 16頁。
- 6) 山田 (1996) : 110頁。

文 献

- 木屋平村史編集委員会編 (1996) : 『改訂 木屋平村史』木屋平村
齋藤ミチ子 (1999) : 多膳形態の諸相, 国学院大学日本文化研究所報, 35巻6号, 1~3頁
高橋晋一 (2005) : 祭礼から見た吉野川流域の文化構造, 中嶋信編『GISを援用した吉野川流域の地域構造分析』徳島大学, 15~45頁
高橋晋一 (2006) : 甘酒の霊力, 土佐地域文化研究, 10号, 11~17頁
三木寛人編 (1971) : 『木屋平村史』木屋平村
山田知子 (1996) : 『相撲の民俗史』東京書籍